



今だって
スマイル!

基本CG51枚

あれから10年... それぞれの道を歩きはじめた5人



それぞれの職場では執拗なセクハラが待っていた...!!

ハッピーな未来は待っているのか!?



正体はバレてるよ(笑)
早くあの姿に
なってくれないかな

ボクはずっと
大きなお友達
だったからね♡

いいね♡その方が
犯りがいがある

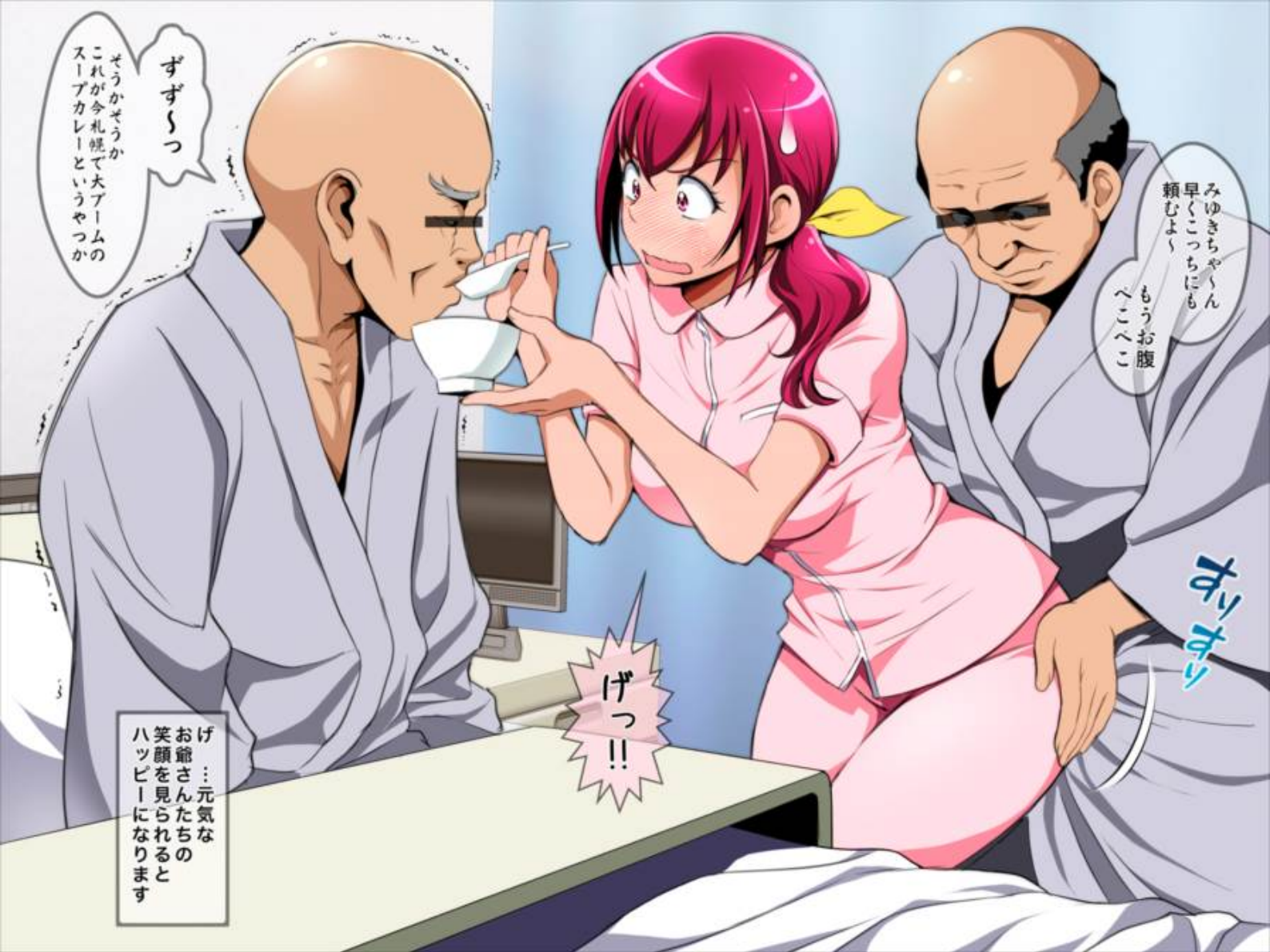
わたし星空みゆき
現在は絵本作家を目指しつつ
老人ホームなどの介護施設で
働いています！

はい♡あ〜ん
美味しいですか？

おじいちゃんこれ
ただのおかゆ♡
それから
作ってくれているのは
わたしも知らないの
食堂のおばさん♡

うん、うん
みゆきちゃんの作る
ビーフストロガノフは
いつ食べても最高じゃ





ぞうかぞうか
これが今札幌で大ブームの
スープカレーというやつか

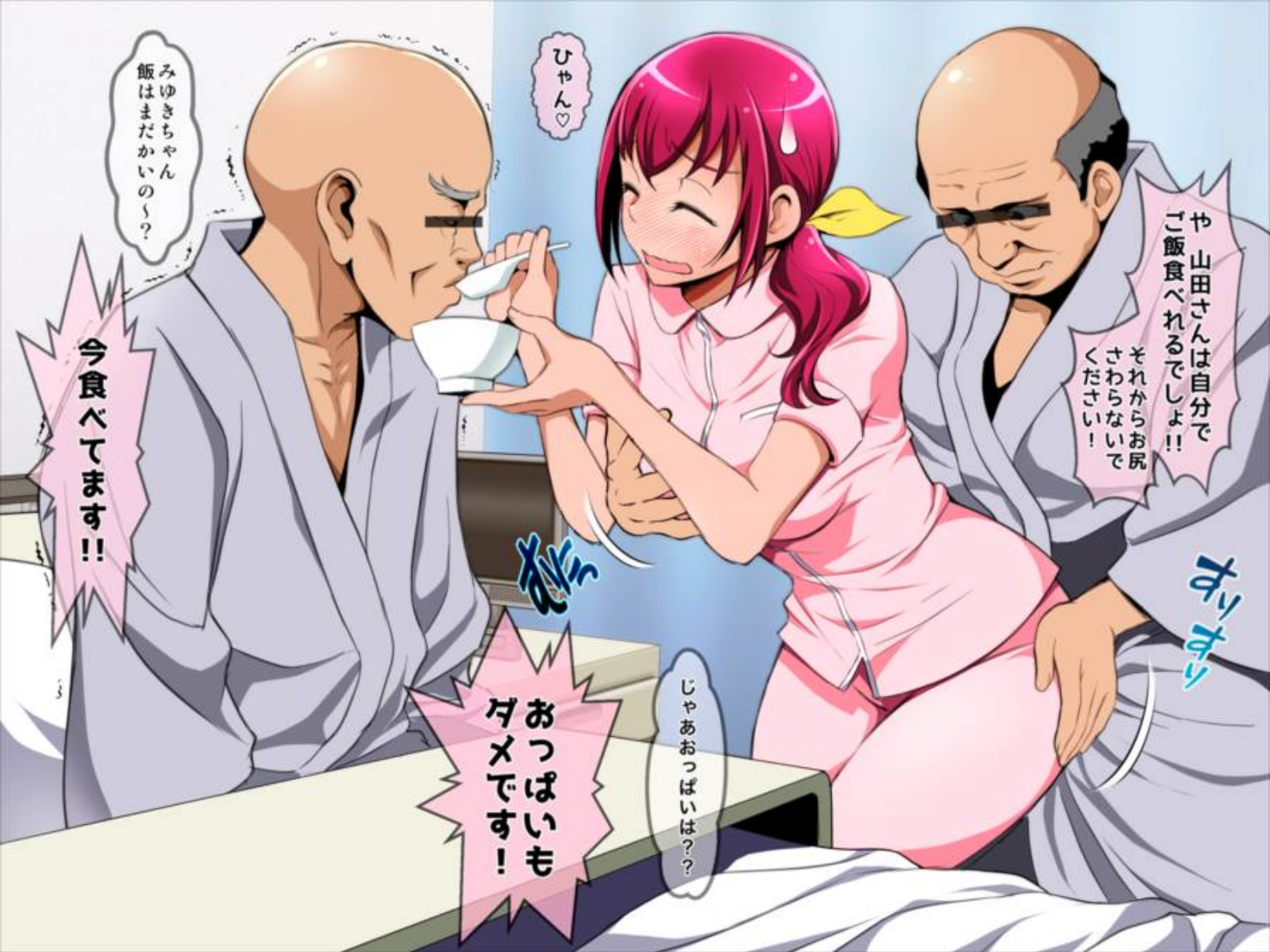
ずずっ

みゆきちやくん
早くこっちにも
頼むよ
もうお腹
へいへい

おっさん

げっ!!

げ...元気な
お爺さんたちの
笑顔を見られると
ハッピーになります



みゆきちちゃん
飯はまだかいの？

ひゃん♡

や山田さんは自分で
「飯食へれるでしょ!!」
それからお尻
さわらないで
ください!!

今食べてます!!

おっぱいも
ダメです!

じゃあおっぱいは??

なに

おっぱい

元気でやんちゃな
お爺ちゃんたちを
おとなしくさせるに

実はちよっぴり
苦労しています

「いつものたむよおく
みゆきちやくん♡」

「元気ちようだいよおおおおお」

たが

いふ

いふ

「うんうん、やっぱり
牛乳は北海道が一番じゃっ」

「母乳は出てません!」





も、もう今日は
ここまでです…

…だれかきちやう

「みゆちゃん おっぱい
一段と大きくなったのおく」
「ワシらが毎日欠かさず
こうして吸ったり揉んだり
してやっとなるからじやるう」

「大地の恵みじやあ
感謝、感謝じやあ」

「しません！」

「感謝してもらわんと♡」

たが

いっせ

あ

いっせ

いっせ

いっせ

いっせ

「こ…こんなにも
ド派手な後股
履きよってからの…」

罰当たりな娘じゃ
恥知らずな尻じゃ！

んぐら
んぐ…う

ちやば
♡

「お 源三ツイちゃん
覚醒してきたぞ(笑)」

源三のお爺さんは
何故かわたしの
ピンクのばんつを見ると
野獣に豹変します





「んんっつ!」

さらにどんどん
大きく硬く
なっています…

源三お爺ちゃんに
後ろから犯されている
わたしを見ている
山田さんのおちんちは

んんっつ!

んんっつ

「おい眺めだ、たまらんの〜♡」

「生意気な尻じゃあつっつ!」

「んんっ!」

源三お爺さんは
自分の介護ベットに
わたしを連れ込むと

さらに激しく
後ろから犯してきます

「生意気な!!」

「このおっ」

「な…なんじゃ
このおっはらばら!!」

「このおっ」

「なんと
おっばいなんじゃあ」



源三お爺ちゃん
わたしの胸を
ちから一杯
揉みしだきます

「おじいちゃん
痛い……」

「な なんと
ポリウムじゃ！」

「生意気じゃあ!!!」

「もっと……
やさしく」

「なんと
柔らかさじゃっ」

「こんな生意気なおっぱいは
こうじゃあああああ」

動物と化したお爺ちゃんの力はお年寄りとは思えないほど力強く胸におじいちゃんの手の後がはつきりと残るほどです……



「ムンじゃあっっっっっ!!」

「この桃色プリケツ娘があっっっっ!!」

「ムンじゃっっ」

「こんの生意気おっぱい娘があっ!!」

らめらめえ

ムン

ムン

ムン

ムン

ここれ以上
血圧上がったら
危険らよあっ!!
おじいひゃん!!

「ムンじゃ」

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン



「ほれ、
いつものアレ
やってくれ
みゆきちゃん！」

「うう…
冥土の土産にって
言われちゃうと
断れない…(泣)」

「もう！ 本当にこれって
最後にしてくださいね！
約束ですよ！！」



正直この歳で
キュアハッピーは
厳しいです…(泣)

そして最後は…

「冥土の土産に
どうかお願いじゃ」

「…『フリキュア』
頼むから…!!」

おどろ



「みんなをスマイルに
してくれるみゆきちゃん
マジ天使♡」

「さあ、わしら
大きなお友だちも
スマイルチャージ
させてもらうかの♡」

はー

ええええ!?
だめだめ

あれは絶対
ダメえっ!!

はー

はー

はー



ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ひざいっ!

あ...もうためえっ
これ以上はおしりの穴
大きくなっちゃうっ



ふえええええ
えええええん

「んお 尻の穴を
ほじられた途端
ものすごいおまんこの
締めつけじやあ!」

「キュアハッピーの
ケツまんこ
気持ちいいっ♡」



こんなお爺ちゃんたちですが
きつと悪気はないのです…

「も もう我慢できんっつっ!!」

え？ ええ？

ちよ、らめえっ!
中に出しちやらめえ
ええええええええっ!!

年に数回しか
会いに来てくれない家族…

その寂しさを紛らわすために
こんなエッチなことを
するのだと思うのです

「キュアまんこに中出し最高♡」



そんなお年寄りの
孤独や寂しさを
笑顔に変えるため
これからもわたしは
頑張ります！

ふああああ
ああああん

…あ♡

下のお世話は(性的な意味で)
お尻の穴がちよっぴり
ヒリヒリしたりもして
大変だけれど…

これもお仕事！
スマイル♡スマイル

「んん…っ！」

あ♡

んおっ!!



わたし 日野あかねは
実家のお好み焼き屋を立て直すため
兼ねてからスカウトのあった
実業団バレーボールチームに
決々入団したんや

「おい、日野！ 今日の試合の負け」

しっかしここがイタイ破廉恥セクハラ
バレーボールチームと知ってたら
絶対に入団せえへんかったのに！！

「…そんな言われても
うちはまだこのチームに入って
たった二試合目で」

「キャプテンとしてお前は
どう責任取るつもりだ!？」



「チームメンバーの名前すらろくに覚えてへんのじゃ！」

「しかもいきなりキャプテンってムチャぶりにも程があるやろ！」

「高い契約金を払ってるんだ!! 言い訳するな！」

「オマエほどの実力があいなながら格下のチームに負けるとは」

なんでもいきなりお尻ワシ掴みやねん
それ セクハラってヤツやろ

「随分と動きが固かったが…
久々の試合でまだ身体がほぐれて
ないんじゃないのか？」

「どくれ♡マッサージしてやるか」

ムチャ

ムチャ

コーチはチンパン
監督はゴリラ…
猿の惑星かここは？

ちよ、だからもう
ケツはええねん

…最悪や

どうせなら
背中とか肩
揉んでや：

「目野はウチのチームにとって
とっても大切な選手だからな
入念に揉みほぐしてやろう♡」

「どれどれ、オレにも
マッサージさせてくれ！」

ほろほろ

ほろほろ

「そもそも目野は大舞台に弱いのか？」

「試合になるととたんに動きが固くなる気がするぞ」

「そんなんないです！
本番めっちゃ強いです!!」

なっ

「どうかなく それではちよつと試してみるか？」

「やっ、ちよ？？？ なんですっ!!？」



「本当に緊張しないならこんなことされたくらいでは
ビクともしないはずだが？」

なにわけわからんこと
言うてるんですか？

や!? ちよ…
待ってや!?

「本当に本番に強いか試してみよう♡」

どんな理屈やねん!



「さあ、恥ずかしさを克服する特訓だ！」

「そやからウチは試合で緊張なんてしてへんって!!」

あゝあゝ

がっ
いっ

「最後まで付き合っ
てやるからしっ
かり頑張れよ♡」



や…やめっ

おっぱい吸いながら
なに偉そうなこと
言うてんねん!!

「大舞台で最大限のパフォーマンスを発揮するには
メンタルの強さが必要不可欠だ」

「いんちとでキヤーキヤー騒らでるするー」



「本番に強いかどうかは本番してみないとわからんな♡」

アカンアカン!!
こんなただの
セクハラやる!

アカンって!!

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

「うんうん下半身もよくトレトレーニングしてらるようだな」
「いっせーっせーの引き締まってるぞー」

あははは

あははは





それは
アカンって!

いやあああああ!!

「いぞいぞいぞー! 大声出すほどよく締まる♡」

あーん
あーん
あーん

あーん
あーん
あーん

あーん
あーん
あーん

あーん
あーん
あーん

あーん
あーん
あーん

実家のお好み焼き屋を
立て直すためや…

はあ…はあ、
お願いやから…
こ…これ以上は
カンベンしてや

多少の苦痛は
我慢せな

「まだまだ特訓は
始まったばかりだぞ♡」

「こんなことくらいで
根をあげてどうする(笑)」



「おっと上半身がガラ空きだったな
バランスよく上下鍛えよう♡」

「じぶっっ!!」

んほう…!?

く…くるひい

「いいね♡ハート
強くなりそう」



「まだ緊張や恥ずかしさがあるようだな！」

「もっと大きく股を開け!!」

も…アカンから

頭にくるのはこのゴリラ監督のちんぽがとにかくこっついうえに

激しいのなんのってなんども意識が飛びそうになることや…!

そせんが激しく突かれたら…アカンで♡

「いぞ目野、ここもエロい汗びっしょりじゃないか」



「もっと激しくするぞ!!」

ふああ♡

いっくいっくもうアカン
いっくううううう!!

「まだまだ頑張れ!勝手にイクことは許さんぞ!!」



「どれ、さっそくその少したるんだ尻も鍛え直すか♡」

な…、
なんやねん？

何する気なん???



「んほお〜♡尻穴にちんぽネジ込まれたらマンコの締め付けキツくなっただぞ！」

「ああああアカント!!」

「そんな絶対アカン！」

アカン

「んふう〜♡気持ちいい〜」



女

女

女

女

女

女

女

女

女

女

そしてほとんどの国民に
正体のバレているウチは
監督に『ポナナス出すから
アレやって』と

「サニーちゃんのアナル最高！」

しぶしぶ
キュアサニーに…

ゆっくりやで
ホンマゆっくり…

フリとちがうで！
冗談やないって！！

「ニチアサでずっと見てたよおっ♡
大人のお友達でよかったあ♡♡」



アカン…て
監督 コーチ
激しすぎ…

「いい締めまりだ！ さすがキュア♡アナル」

ウチのおしり
壊れてまう

…おまんこもや

「プリキュアまんこも
キュンキュン♡♡♡」



こんな毎日やけど
ウチはなんとかで
元気でやっとなるで

はあはあ、
…ふあああ

んあああああああ

「明日から毎日特訓だ!! 一緒にがんばろうな♡」

「なんの練習やねん!!」

「もうこんなバレーボール関係ないやん!!」

しかしこれホンマ
おしり大丈夫なんやるか…?
トイレの時とか???

…誰にも相談できへん(泣)



わたし黄瀬やよいは『ミラクルピース』の連載終了後から長期のスランプに落ち入ってしまったお仕事の依頼がすっかりなくなってしまったのです。

「おい、グズグズしてないで早くスカートたくし上げるよ!! べ切近いんだから!」

…でもわたし
そっせんなの
聞いてません

編集さんの紹介で
なんとかアシスタントの
お仕事をいただいたのですが…

「パンツ見せてるところデッサンとりたいんだよ!」



ど…どうか
こんな恥ずかしいことは
勘弁してくだ…さい

…それが その
エッチな漫画のアシスタントだと
知ったのは仕事場に呼び出されて
からだったのです

ペタでもトーン貼りでも
なんでもしますから…

しかもエッチなポーズを
させられるモデルなんて
なにも知らされてなかったのです

×切前でイラ立っているのか
作家先生はものすごい剣幕で
怒鳴り散らします(泣)

「うるせえなっ！ もっと腰を前に突き出せよ！」



「パンツの中はどうなってるんだ!」

「よくわかんねえから
そのままパンツ脱げ!」

ふえええええ

ぐすん...

お願い...もう
許してください

「ケツの穴の奥のまで
しっかり描いてやるから
自分で広げる(笑)」



作家先生の要求が
どんどんエスカレート
してきた時点で
なにか悪い予感
していたのですが…

「両手を頭の上にあげて大きく足を広げる！」



「おっいアシストの米俵クン後ろから即ちんこ挿入して」
「はい、喜んで♡」

あー
ほー
ほー
ほー
ほー

…?
…?
…?
…?

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー

「……うん表情イマイチだな
米俵クンおっぱいいじくり回して」

「はい、喜んで♡」

ふああ♡

あうっん♡

「……その ちよっぴりだけおっぱい…感じてしまい声が出てしまいました」

「うかつにもちよっぴり…」

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル



身体の小さいわたしは
下半身を担ぎ上げられ
とんでもない姿で
前から後ろから犯されました

「お この体位エロくていいね！
こんな難しい角度描けないけど
気持ちよさそうだからいいか(笑)」

「はっ、喜んで♡」

「米俵クンはまだ射精しないでね
この後いい絵を撮りたいから！」





「米俵クン、このは前半のクライマックスに使ったから下半身砕けるくらい激しく鬼のように突きまくってー」

「は、喜ぶの♡」

「いいねえ見開きはこの絵使いたいね」

「ほうっ、げほおっ!!」

んんん!!

「興奮してきたから俺も参加♡」

信じられないようなアクロバチックで恥ずかしい体勢をさせられながら更に何度も犯されました

こうなるとわたしは二人のオモチャです

「ピースちゃんの
小ちやくて可愛い尻だ
このパットエンドペニス
入るかなあ〜♡」

ひきこ〜

…はう

だめええっ、やっぱり
こんなのいやあああ
ああああああ!!

「もう大人でしょう
しっかり
お仕事 お仕事！」



「これがあのピースちゃんのお尻の中かあ♡
温かくて気持ちいい♡♡♡」

締めまりすぎて
入れただけで
もうイキそう

ひぎいっ！

あらめ…っ
そんなに動いたら
らめえええっ

：わたし変態さんの
仲間入りです♡

お尻の穴に
こんな酷いこと
されちゃったら
もう





「はい、そのまま
こっち向いて！」

「いいねえ♡
そんな悲しい顔しないで
もっとアヘツてよ」

ふたりのおちんちんが
お腹の中でゴリゴリ当たって
おかしくなりそうなのです

ももももももも
もう無理ですう

「米俵クン、アシスト料アップするから
下からキュアマッコ壊れるくらい
突き上げて！」

「はい、喜んで♡」

ズボ
グワッ

ズボ
グワッ



おお願いしましゅう
もう許ひてえええっ

ふあああ♡

あん♡

いいぞ！いいぞ！！
そのトロ顔♡最高！

頭が真っ白になるほど
：上からも下からも
恥ずかしい穴を：
壊れるほど何度も何度も
犯され続けました

ズボ

ズボ

「んお♡ もうイキそうだ!! プリキュアアケツまんこ気持ちよすぎ!」

「米俵くんもう射精していいよ!」
目一杯出してね!!」

らめらめ♡♡♡
らめらめえ♡♡

中には出しちゃ
らめえええっ!!

「よ、喜んで!!」

おははは



「おいおいアレ忘れてんだろ、射精に合わせてアレやれ！
最後までしっかり仕事しろよ!!」

「ふええ??」

「ピースだよ!! ピースっ!」

ピカピカぴかりん
じゃんけんポン♡
キュアピースう…

「…!」めんなひゃい
いまやりまじゅ…

「今回は商業やめて薄い本出そうか? 米俵くん」

「はら、喜んで♡」



サッカーで高校・大学と大活躍させてもらったわたしでしたが…

右足に後遺症が残るほどの大怪我を負ってしまった、現在は大企業の社長クラスの個人フィットネス指導員をしています…

下呂川さん、もう少し背筋を伸ばしたほうが浮きやすくなりますよ！

息継ぎも回数も減らせるよう頑張りましょう



正直この仕事は好きではありません。
でも、一緒に事故にあった妹の治療費のため
仕方なく引き受けたのです…

この仕事が好きになれない理由は
このおじさんです

ひそひそ

ねえねえなおちゃん、
エクササイズは
もういいから
ひと休みしようよ♡

し…しかしまだ
十分も泳いで
いませんよ？？



この下呂川物産の社長という男：なにかにつけてはすぐに身体を触ってくるのにはウンザリしています！

「さすがサッカー全国大会で活躍しただけのことはあるねえ」「うっとりするほど素晴らしいプロポーションだ♡」



あ…ありがとう
ごさいます

しかももっと
ウンザリするのは
このいやらしい社長
なんと双子なのです!!

「トレーニングが終わりのようでしたらわたしはここで…」





キヤアアアアアアアアアアッ!!

「なおちやくくん♡まだ帰らないでよおっ 弟のエクササイズが終わってないよおっ」

きゅん

きゅん

ぽん

ぽん

「なおちゃん♡ まだボクの方のトレーニングが終わってないよお」

「おいおい、弟のクセに兄ちゃんよりも先に楽しむつもりかあ？」

「大丈夫だよ、お兄ちゃん
兄弟仲良く一緒に楽しもうよ
ボクたち双子だろう〜」

は…っ!?

あはは

あはは

おぎゃ



「もちろんココは兄さんが先だよ！」

「お先にどうぞ♡」

「うん、うん
さすが兄思いの
やさしい弟だ」

ななな

ちよ!?

兄弟仲が良いのは
とてもいいことだと
思います

わたしはここで帰りますので
この手を離してください!!





「他のこと????
これしかないだろう
今のおおちゃんが
ボクたちに
できることなんて」

やめ…て

グッ

「ああああ、お兄ちゃんお先にどうぞー♡」

お願いします…っ!
ほ 他のごとなら
何でもしますから!!

グッ

「かわいい弟妹のためにサツサと終わらせて早く帰らないとね」

「お兄ちゃん思いやりありすぎ♡優しすぎ♡」

やめて！
お願い：っ！！

イヤアアアアアア
アアアアアアツ！！

「うんうん、それじゃあ
先にいただくかな
大人プリキュアまんこ」

わたしの正体は大抵の
大きなお友達にはすでに
バレているようです

ずぼん！！

ずぼん！！



この双子のおちんちんの
大きさ長さといったら
体格に比例して規格外の
ビックサイズなのです

「なおちやんで仕事以外でも
兄妹の世話とか家事に
追われて全然遊んでないんでしょ？」

一人でも
下半身が痺れて
感覚がなくなる
ほどののに…

く 苦 しい…!!

この巨大なおちんちんが
二人分：倍の二本で
わたしを責め立てて
くるのです

「おまんこ全然使っていないもんね
つるつるのピカピカ♡」



「ふうふうふうふうなおちちゃんのおまんこは
いつも邪魔しても最高の居心地だね♡」

「どうだい？いつその事ボクの
「ラマン」にならないかい？」

ぬき

ぬき

そそんなこと…
できません

セイン

セイン

ぬき

ぬき

ぬき

セイン

セイン

ぬき

わたしのような
運動バカには
とても務まらない
…です

愛人…というよりは
ただの双子の使い捨て
オナホにされそうなので
丁重にお断りしました



「あく気持ちいい♡セックスは何カロリー消費するのかな？」

「このエクササイズならボクでも毎日続きそう」

「なおちゃん毎日、いや毎晩来てくれないかなあ？」

無理です
ムリです!!

はあ、はあ
はあ、はあ

わたしの身体
壊れちゃいますっ!

正確には
おまんこが
です



「なおちちゃんには週2回から
毎日来てもらえるように
契約変更してもらおう」

「さすがお兄ちゃんそれは名案だよ！」

ゆるゆるひて
くら…はい

んぼうつ

んぶつそれはムリ
ですうううううう

「ぶうつ

「ありがとう♡なおちちゃん
ボクたちこれでガリガリだね」



「フリキュアのこんな恥ずかしい姿
こんな近くで見られるなんて
ボクたち兄妹は幸せ者だなあ」

「はっはっは！
というかボクたちが
させてるんだけれどね♡」

いやあああああああ
あああああああっ！！
やめさせてええええ！！

もう無理ですうっつ
このお仕事辞めます



「やっと根元まで
ズッポリ入るようにな
ったね♡」

「うんうん♡なおちゃんは
頑張り屋さんだからねえ」

ひひぐう

はあっ
はあ
…んあ
っあ

誰か たす…けて



「はあああぐつやつぱりプリキュアになったなおちゃんが一番可愛い♡」

「もういいよね♡ 中に出すね♡ しょうがないよね♡」

中に出すのだけは
やめてええええええ
ええええええっ!!

「お兄ちゃんズルいよ！ ボクも中に出したい!!」

ズル



「はっはっは 当然だろう！ ポクたちは双子だ!!」

「一緒に射精しようじゃないか♡ 盛大に(笑)」

ふあああああああああ
お願い助けてえええええ

「さすがお兄ちゃん♡ それじゃあお言葉に甘えて…!!」

なんだかんだと
大人の事情により
この生活からなかなか
抜けられない私です…

いきゅ♡



玉袋君、青筋君
授業は始まっていますよ

先生と一緒に
謝ってあげますから
教室に戻りましょう

私は現在教職に就いています
担当は国語や古典などを教えています
放課後は剣道部と書道部の顧問も兼ね

多忙な毎日ですが
とても充実しています



「えくやだよ」

「オレはれいか先生のぽんつ見せてくれたら考えてもいいよ(笑)」

わ…わかりました

…これでいいですか？
さあ、教室に戻りましょう

ア?

大人でもない子供でもない
年頃の子を相手にするのは
大変ですが、とても
やり甲斐はあります

この子達が反抗するのは
きつと愛情に飢えている
だけなのです

そんなことは
ありません…

「先生ずりいつ！玉袋の言や〜とばっか聞いてよ!!」

「じゃあれいか先生のおっぱい見せてよ!」

「へ…!!?」

「れいか先生は生徒みて態度を変えるんのかよ!」

「そんなことありません!! みんな同じです!」

ど
どうですか?
これでいいですか



しっかりとした愛情を
与え続けられれば、どんな子供にも
きつと伝わるはずなのです！

あふあ

んん…ん

「れいか先生大好き♡」

「先生のおっぱい大きくて真っ白で柔らかくてマジ天使♡」

もっ♡

おっ♡

おっ♡



!!

きゃ...!?

も...♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

いやっほう♡れいか先生の
おっぱいだああああ♡



ふぁだめっ！
吸ったりしては
いけま…せん

…見るだけ
触るだけにし
てください…

「ムリ無理！ れいか先生の
おっぱい目の前だして
それはムリ!!!」

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡

おん♡



「すりい先生!!
それじゃあオレは
ちんぽ吸ってよ!」

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ

「これで最後に
してくださいね、
授業が終わって
しましますから…」

れいか先生の
くちびるの
柔らかさ♡





「いいからいいから、先生はオレのちんぽに集中して！」

ふあ...ちよ
いけません！

「先生はお尻もしまつてて
キレイだよねえらっ
剣道とかやってるからっ！」

お尻がスースーすると思ったら
いつの間にか下着を脱がされてました！

生徒たちを信頼しすぎたのか
ちよっぴり隙だったと思います



「先生、オレもう我慢できないのでちんぼ入れま〜す!」

え? ええ!? いけません!

ふああ ああん♡

こそ それはダメです!!
それは愛し合った男女が
結婚したのち:

うわん

ドクッ

んんん

たん

んん

んんん



「ここんなの…
はあ、はあっ
いけま…せん」

「…あん
ああん」

「れいか先生の
おマンコの中
温かくて
気持ちいい♡」

「大丈夫、先生！ オレたちみんな
れいか先生のこと大好きで
本気で結婚したいと思っているから」

「そんなプロポーズ
するんです…！」

愛の告白に
全く慣れていない私は
年甲斐もなくドキドキ
してしまいました

「んんん」

「んんん」

「んんん」

「んんん」

え？ 本当ですか？
本当に勉強してくれるの？
先生とっても嬉しいわ♡

「だからいいか先生結婚して！
そしてオレの子供十人産んで♡」

「お 大人を
からかうものでは
ありません！」

「先生照れてるカワイイ♡♡」

「するする！
勉強くらい
するする！！」

男性経験の少ない私は
「結婚してほしい」や
「子供を産んでほしい」の
言葉にいちいち反応して
しまいます…♡



私の気持ちが伝わったらしく
彼らは次々に私の中に射精すると
「本気で勉強するから結婚して
くださいね!」と
足早に教室へ戻っていきました

「れいか先生、
オレ本気で勉強するから
結婚してください!」

はあ、はあ、はあ
…ふぁあ あっ

しかし彼らの若さに任せ
少し乱暴な性行為に:
私の腰は抜けてしまっ
そうです

五人以上に射精されてから先は
もう立っていられない程に
足はガクガクと震えていま

も…もう少し
ゆっくりしまし
落ち着いて…
優しくね

射精



彼らは後に死に物狂いで勉強し、後には次々と名門大学へ入学していきました

「だからお願いです、卒業したらすぐに結婚してください！」

「先生！俺は年内に絶対学年トップになります!!」

中には政治家になったり一流企業に入社したり起業して億万長者になった生徒もいます

困ったことにその全ての生徒から求婚されています

気持ちは嬉しいけど先生は一人しかいないの

みんな全員とは結婚できないの！



：私の正体は
ほとんどの生徒に
知られています：

「先生、オレこれから毎日遅刻しないでちゃんと登校するから」

「無免許バイク運転もやめてヤバいドラックも全部捨てて
もうこの学校へのテロ行為も二度としません：！」

「だから先生：アレお願いします」

わかりました!!
フリキュアに
なりますから!
みんないい子に
するんですよ!!
約束ですよ

「すげえっ♡れいか先生の
キュアビューティー美しすぎ!!」



「キヤッ?」

「なになに?
どうするの?」

ふあああああ
あああああ
あつ!!

だダメよ
そんなの
ダメダメ!!
やんつ

「お願い♡お尻の穴に
ちんぼ入ってる時の
青木先生の顔見せて♡」

「青木れいか先生
全てが美しすぎ♡♡♡
お尻も♡お尻の穴も♡」



「こ…こんな先生だけにしてあげてね お尻…壊れちゃうから」

「れいか先生おマンコ
さらにキュってしまつて
気持ちいい♡」

だつて…その
お尻に何か入つてきたら
カンドしまいます
言わせないで…

「早く卒業して
先生と付き合ひてえっ!!
しいては結婚して
子供二十人欲しいっ」

この生徒達のおかげで
数年後この学校の偏差値は
全校10以内にはいる程に
なるのです

県下でも有数の
名門進学校に
急成長します…



こ こんなにも
みんなの熱い想いが
溢れ出てる...♡



愛する生徒一人一人の
熱い想いが私の身体に
溢れるほどに注がれて
いきます

ふあああああんっ♡

「れいか先生ありがとう！
俺、絶対立派になって
先生迎えにくるから!!」

「それまで結婚しちやダメだよ!」

「それはだめです!」

「あーっ!」

「あーっ!」

「あーっ!」

「あーっ!」

「あーっ!」

「...え? どうして!?
先生もしかして彼氏とかいるの?」

「いませんよ」

「じゃあどうして...」

「あーっ!」

「あーっ!」

「あーっ!」

だっつてその頃
私はきつと
:おばさんに
なってるもの
ありがとうみんな
その気持ちだけで
先生:とっても嬉しいわ

本当は勉強なんて出来なくてもいいんです
たとえ勉強なんて出来なくとも
ハッピーなお友達を、仲間を
先生は知っています！

でもね、みんなはまだ学生なの
お勉強がお仕事なので
だからもう少しの間だけ
先生と一頑張りしましょうね

先生はいつでも
見守っていますよ
今もこれからも…
♡

